

図書館フレンズべっぷ

朝晩、冷え込みが厳しくなっていますが元気でお過ごしですか？

ニュース「図書館フレンズべっぷ」をお届けします。別府市の新しい図書館を実現する会は運営委員会を毎月開催し、別府市の図書館建設への動きや全国の公共図書館の状況などを学んでいます。会員の皆様への情報発信がうまくいっておらず、なんとなく閉ざされた会のようになっていますが、図書館を愛する市民の皆様と連携しながら別府市の図書館充実のため、活動していきたいと思っています。

別府市 新図書館の 動向

新図書館計画は どのように進んでいるの？

別府市主催の会議に参加してきました。

会議傍聴報告

2019年10月11日 市役所

●第3回別府市新図書館等整備基本計画策定委員会

委員のみなさんの話し合いを聞いてきました。レジメや資料がない中での傍聴です。話し合いのポイントはあるが、それに沿っての協議が続かない、深まっていけない印象を受けます。中には「蔵書は関係ない。本はなくてもいいのでは」という意見も飛び出し、驚きましたが、これに対しては他の委員より反論がありました。具体的な話としては図書館の総面積が9374㎡で、面積から考えると蔵書数は約30万冊になるだろうという話が出ていました。

気になる
ところ！

来年から設計が始まる図書館に 必要なことは…？

オープンプラットフォーム会議でいくつかの講話を聞いた。紫波町の主任司書は「図書館作りが出来るのは一生に一度のチャンス」と説得され、他の図書館への就職を諦め、紫波町の館員になるのを引き受けたとのこと。情熱的に図書館への想いを語るのを聞きながら、フランシスコ・ザビエルを思い出した。そういえば、優れた図書館は必ず自分の生涯を賭ける「図書館宣教師」とも言うべき人材を獲得している。彼女は「図書館準備に、4年関わる事ができれば」とも言っていた。来年から設計が始まるという事だが、そのような人材を早く獲得して、設計者との打ち合わせに入ってもらわないと良い設計は出来ないし、資料の準備も出来ない。館長とそれを支える正規の専門職の採用が待たなしではないだろうか。

会議参加報告

2019年11月15日 市役所

●オープンプラットフォーム会議 Vol.3

毎回、ゲストを呼んで話を聞きながら、参加者と共に公開ミーティング形式をとっている会議です。

前回の会議では、紫波町の図書館司書、宇佐図書館の司書、おじいさんの森の館長のトークがあり、図書館の専門家としての意見が聞かれました。

今回は、社会教育課長、県立鳥取図書館の経験を経て、図書館の現場をよく知る、神代浩氏が「困ったときは、図書館へ」というテーマで、図書館の役割や図書の大切さを痛切に訴えられました。人生で出会う課題を解決させる力が本にはあり、課題をかかえた人への提案ができる意識の高い司書の必要性も語られました。

また「世の中のいろいろなことにつながる資料が図書館になればいい」と言い、新聞の一面を賑わすニュースがあれば、その社会問題に関わる本の紹介コーナーを図書館はつくるべきで社会とかけはなれた存在になってはいけないと話されました。

そのほかに「アイデア紹介」として4人の方から発表がありました。4人ともアート系の活動を通しての発表でした。アートを通して人々を結ぶ空間やコミュニティの可能性をつくっていくお話は興味深いものでした。

ただ、別府市では美術館と図書館をどのようにひとつにした施設をつくるのかなど、まだ明確に市民に見えてこない部分があり、そのあたりのことを心配されてか、最後の質問のところでは「美術館と図書館は一緒にせず、別物として考えてほしい」などの意見が傍聴者よりありました。

また「図書館長はとても重要なため、具体的な検討が始まっている時期、そろそろ館長を決めていただきたい」と当会からの参加者も意見を述べました。

一緒に傍聴してみませんか？

今後の
日程

第4回 別府市新図書館整備基本計画策定委員会
12月23日(月)13:30～
市役所5階大会議室で傍聴できます。
30分前から受け付け開始です。

次回のオープンプラットフォームの会議 (Vol.4)
1月19日(日)



図書館訪問

2019.10

諫早市立図書館



裁判員制度に関する本が並ぶ特設コーナー

長崎県諫早市東小路町6番30号

<https://www.lib.isahaya.nagasaki.jp/>

諫早市人口／134,591人（2019年11月1日現在）

諫早市は図書館先進地、年間貸出し数100万超

諫早市は全国的に見ても図書館先進地。市町村合併があったとはいえ、市内に3つの図書館、1分館、3分室を要している。

諫早市立図書館は20年以上前に訪れたことがあるが、新しく建て変わっていた。市庁舎の隣に有り、10時の開館前から、ロビーには開館を待つ利用者が大勢いた。ロビーには図書館の企画展示コーナーや、新刊案内などがあり、その一角のカフェはNPO法人としゃかんひろばが運営している。行政と市民が一体となって図書館活動を普及させようとしている姿勢がうかがえた。

開館と同時に、カウンターは混雑していたが、てきぱきと処理をする職員が頼もしく見えた。館内にはいくつもの資料の紹介コーナーが、例えば「裁判員制度10周年」「(山崎) 豊子忌」「吉野彰ノーベル賞受賞」…があり、それぞれ豊富な資料が展示されていた。

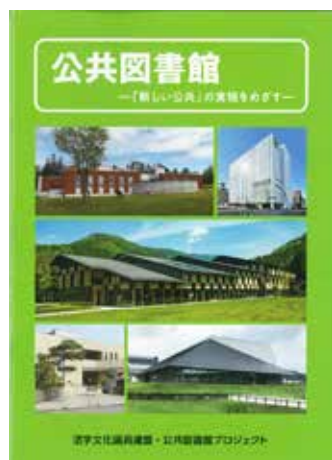
ホームページには図書館要覧が載っている。全図書館の資料費7500万、年間貸し出し数100万超、職員数や豊富なサービスを是非見て戴きたい。

(N.S)

図書館を考える
資料紹介

公共図書館 ―「新しい公共」の実現をめざす―

発行／活字文化議員連盟・公共図書館プロジェクト



発行日／2019年8月20日

【お問い合わせ先】

公益財団法人 文字文化推進機構
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 3-12-3
HP <http://www.mojikatsuji.or.jp>
メール office@mojikatsuji.or.jp

「公共図書館」の重要な役割や日本の公共図書館の現状、「新しい公共」をめざす展望がわかりやすくまとめられています。

「公共図書館はインターネットの急速な広がりにより大きな転換期を迎えている」とし、「しかしデジタル時代だからこそ、公共図書館がインターネットやデジタル機能を積極的に取り入れ、住民の情報アクセスを保障する情報資源の拠点となることが期待される」とあり、「公共」であることの意味を整理し紹介しています。【本書より】図書館の機能とはなんだろうか。新しい本を並べることも大切なことだが、書物に対する文化的な考察をし、歴史的な本か、貴重な本かを判断しないといけない。昔の貴重な図書がこれからも出てくるだろう。それを価値判断して伝承する。これは図書館の大きな要素だ。

【本書より】図書館は人と図書資料と設備で成り立つ。図書館は人がいることで単なる書庫ではなく、人びとの知的欲求を満たす図書館となる。一部の自治体や図書館界では、この基本的な理念が尊重されず、図書館職員は現在、「官製貧困」と指摘されるほど劣悪な労働条件のもとにおかれている。

…など。また、図書納入は地域書店を優先する提言や指定管理制度は公共図書館には馴染まないのではと分析されています。

★メディアから
ひろった図書館メモ★小学校学力日本一の村の
図書費予算は
全国平均の4倍以上

小学校学力日本一になった秋田県の東成瀬村の小学校がテレビで紹介されていた。いろいろな工夫があるなかで、村の児童一人に対して図書費予算は約6000円。これは全国平均の約4倍にあたるそうだ。

朝10分の読書時間があり、放課後になるとすぐに図書室へ行く子どもたち。

本を読む環境が子どもたちを成長させている。



今後の活動

今後、会員の皆さんに月1回の運営委員会の内容を会報（図書館フレンズベっぴ）で報告していきます。市の策定委員会の内容について、疑問に感じる事などを集約して、関係部署に説明を求めています。また、指定管理制度については、図書館にそぐわないという点が、図書館法などにも理由が示されているので、学習していきます。会として、実現する会としての役目を終えたので、今後、新図書館を育て見守る会として、どのような活動内容が考えられるのか話し合っていきたいと思います。